

■はじめに

近年の高校入試では、推薦入試や特色選抜方式の募集が増えてきており、その入試教科として小論文が採用されていることが多い。高校入試で出題される小論文では、与えられたテーマに対して、どのように考え、どのようにしていこうと思うのか、自分の意見を書かなければならない。限られた時間内に書きあげるためには十分な練習が必要なのは言うまでもない。

入試本番までに、よく出題されるテーマについての知識を増やし、解答の方向性を決めておくことが必要だ。また、減点されない小論文の書き方について身につけておくことと安心して本番に臨める。本書で万全の準備をし、志望校合格を勝ち取ってほしい。

■本書の使い方

本書は、前半が《知識編》、後半が《演習編》の二部構成になっている。

《知識編》では、「小論文の基礎知識」や「頻出テーマとキーワード」についてまとめられている。初めに目を通しておき、必要なときに確認しよう。

《演習編》では、順を追って、実際に小論文に挑戦する。本書には、すべての課題に、本番形式の解答用紙がついており、添削指導を受けることができる。小論文を上達させるためには、実際に書いて添削指導してもらうのが最も良い方法だ。

小論文が初めての人や苦手な人は、知識を深めることができ、長文を書く練習になるので、ぜひすべての課題に挑戦してみよう。時間が限られている人は、それぞれの入試スタイルに合わせて選択して書いても構わない。

基本編

テーマ型、課題文型、資料型の小論文について演習する。「基本編」では、ヒントとして、書くべき内容を示しているのので、指示に従って書けば、小論文が初めての人や苦手な人でも、無理なく書けるようになっている。

実践編①

「基本編」で学習した、テーマ型、課題文型、資料型の小論文について実践的に演習する。各課題には、原稿用紙に清書する前のガイドがついている。サブノート形式になっているので有効に利用しよう。

実践編②、③

近年、推薦入試や特色選抜入試でよく見かけるテーマ型（実践②）と課題文型（実践③）の小論文に的を絞った出題となっている。これらの課題にもガイドがついているので有効に活用しよう。

目次

■はじめに	1
■もくじ	2
《知識編》	
■知って得する！小論文の基礎知識	3
小論文は段落構成で決まる！	
課題条件と客観的事項に気をつけて！	
■頻出テーマとキーワード	8
◎「言葉」について ◎人間と自然 ◎現代社会 ◎高校生活	
《演習編》	
■基本編	11
◎400字小論文	
課題1 テーマ型「自分らしさ」	
課題2 課題文型「自然環境に対する理解を深めること」	
課題3 資料型「食料問題」	
■実践編①	17
◎600字小論文	
課題1 テーマ型「高校生活の目標」	
課題2 課題文型「古典を読むことの意義」（要約付き）	
課題3 資料型「少子化問題」	
■実践編②	23
◎400字小論文	
課題1 テーマ型「人とのかかわり」	
課題2 テーマ型「ことばの大切さ」	
課題3 テーマ型「国際理解を深める」	
■実践編③	27
◎600字小論文	
課題1 課題文型「世間の常識を疑う」	
課題2 課題文型「高度に進んだ学問」	
課題3 課題文型「創造すること」	

■知って得する！小論文の基礎知識

小論文は段落構成で決まる！

「論文」とは、学問の研究成果などを論理的な手法で書き記した文章のことである。入学試験などで、何かしらのテーマを与えられ、論述する論文の一つの形式として「小論文」がある。「小」と付いていても「論文」には変わりなく、論理的に書く必要がある。そのためにもっとも大切な手法が「段落構成」である。

例えば、皆さんが聴いている音楽の曲にも定番の構成というものがあり、それぞれの「段落」を組み合わせて一曲が完成する。

イントロ（前奏）→Aメロ（曲の最初のメロディ）→Bメロ（Aメロとサビを繋ぐ重要な部分）→サビ（曲の中で、最も盛り上がる部分。曲の主張そのもの）→間奏（フレーズの切れ目に入る部分）→Cメロ（最後のサビに続く旋律）→アウトロ（後奏）

このように構成することで全体がまとまり、曲に説得力が生まれるのである。

論文の世界でも基本的な考え方は同じだ。600字程度の小論文の場合、その構成はもっとシンプルで、大きく「序論」「本論」「結論」の三部構成で書くのが基本となる。では、それぞれの段落の役割を説明していこう。

☆三部構成とその役割

《序論》

テーマを提示し、これから何を論ずるのか「問題提起」をおこなう構成要素。課題のテーマを簡潔に要約してから、それに対して自分はどのような立場で考えるのかを打ち出す。ここで結論を言ってしまっても構わない。

《本論》

序論で問題提起したことを自分自身の観点で考察する構成要素。自分が体験したことや見聞したことなどの具体的な事例を挙げ、それをもとに考察をおこなうので2段落構成になる。

《結論》

「序論」において提起した問題に対する結論を述べる段落。どのように取り組むべきなのか明らかにしよう。

・段落は二種類ある！

段落には、「形式段落」と「意味段落」がある。「形式段落」は表記上の段落のことであり、「意味段落」は、いくつかの形式段落が集まり、ひとつの意味を持ったまとまりのことである。

・起承転結はダメ？

「起承転結」のまとめ方における「転」は、意外な展開で変化をつけることで面白みを増やすための段落だ。小論文のように論理的に書く文章には向かない。

☆小論文を体感！

これはちょっと極端な課題だけれども、小論文では、自分にとっては「どうでもいいのに……。」と思うことについても解答を求められる。そのような問いにも「そんなのどっちでもいいじゃない！」と正直な気持ちを書いてしまってはダメだ。小論文とは、自分の気持ちを書く作文ではなく、課題に対する答えを論じるものなのだ。それでは、この課題を「賛成」と「反対」の立場から書いてみたので、小論文を体感してほしい。

課題

ある人が「私はチョコはビターにかぎる」と述べている。
これについて、あなたの意見を述べなさい。

《賛成の場合》

【序論】この人は、「チョコはビターにかぎる」と述べているが、私もそう思う。

【本論】たしかにミルクチョコもおいしいが、私はビターチョコのほろ苦さがたまらない。チョコとはカカオを楽しむものだからあまり甘すぎないほうがいいのだ。

【結論】だから、私もこの意見に賛成だ。

《反対の場合》

【序論】この人は、「チョコはビターにかぎる」と述べているが、私はそうは思わない。

【本論】たしかにビターもたまにはいいが、勉強に疲れたときに食べる甘いミルクチョコは、頭の疲れを癒してくれる。チョコとは甘さの中のカカオとミルクのハーモニーを楽しむものなのだ。

【結論】だから、私はこの意見に反対だ。

賛成の立場でも反対の立場でも意見を述べるができることが体感できただろうか。どちらの意見にも、自分がそのように思う理由がきちんと書けている。小論文では、どちらの立場で意見を述べてもかまわない。どうしてその立場にしたのか、この理由が読む人を納得させられるかどうか重要なのだ。

課題条件と客観的事項に気をつけて！

自由作文とは違い、小論文にはいくつかの課題条件があり、それに従って書くことが必要だ。もちろん課題条件に則していない場合は減点となる。また、表記・表現や原稿用紙の使い方などの間違いは客観的に判断できるため、なんらかの減点となる。細心の注意を払って書くようにしよう。

☆課題条件

《字数制限》

もっとも注意しなければならない条件の一つ。字数が少ないと内容の良し悪しに関わらず大きな減点となる。

○字以内で⇒指定字数の9割以上

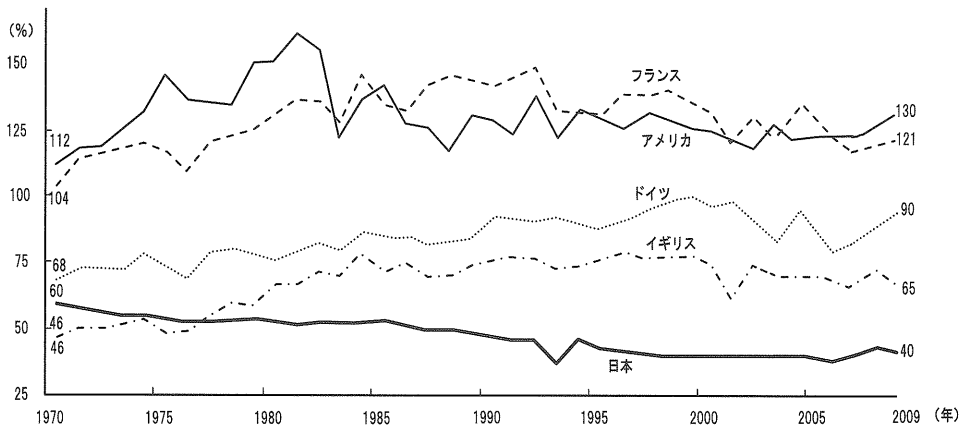
○字程度で⇒指定字数の1割増減の範囲
で書いていれば減点されることはない。

課題3 資料型「食料問題」

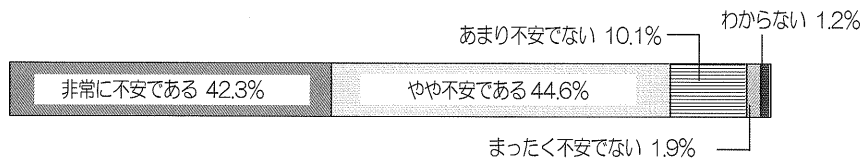
近年、日本の食生活の環境や文化が変化し、食の安全性を確保することが以前より複雑で難しくなっている。次の資料①～③の資料を見て、私たちの今後の食の問題について、あなたの考えを述べなさい。

(注意) 正しい原稿用紙の使い方で、400 字程度 (横書き) で書くこと。

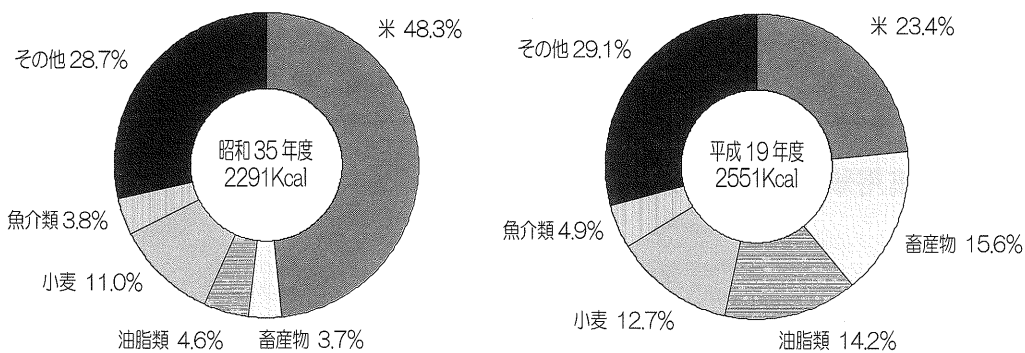
資料①
食料自給率の推移



資料②
食の安全安心アンケート



資料③
食生活の変化



資料：農林水産省

◆ステップ1◆ 3つのグラフを読み取ろう！

資料① 日本の食料自給率は諸外国に比べてどのような状況なのだろう？

資料② 多くの人々は輸入食品に対してどのような気持ちを持っているのだろうか？

資料③ 日本の食料自給率の低下は、どうして起こっているのだろうか？

→日本の食料自給率低下は、食生活の急激な洋風化が大きな要因となっている。

日本の食料自給率は諸外国と比べてとても低い。それは日本の食生活の洋風化が大きな原因である。その結果、日本は多くの食料を輸入しているが、多くの人たちが輸入食品に対して不安を持っている。

◆ステップ2◆ 問題を提起しよう！

日本が安全で豊かな食生活を取り戻すためには、どうすればよいのだろう。

*日本の食料自給率を上げることが必要だ。

*輸入食品の検疫検査をより厳しくすべきだ、など。

◆ステップ3◆ 体験・見聞を挙げよう！

自分の選択した立場の根拠となる体験や見聞を取りあげよう。

*TPP 問題が議論を呼んでいるが、外国の農作物が入ってきても、対抗できる体力をつけなければいけないとがんばる農家の姿を見た。

*港や空港での検疫の様子をニュースで見たが、日本のチェック体制は非常に厳しいことを知った。

◆ステップ4◆ 体験・見聞をもとに考えよう！

体験・見聞をもとに、私達が安全で豊かな食生活を取り戻すためにはどうすべきなのか考えよう。

《キーワード》

地産地消、適地適作、地域社会農業、廃棄食材、バイオ技術、領土問題、減反政策

◆ステップ5◆ 意見をまとめよう！

考察（ステップ4）をまとめ、この課題に対する自分なりの意見を述べておこう。

*日本が輸入食品に頼らない国になるためには、私たち一人ひとりが地産地消を心がけ、日本の農業を盛り上げていかなければならない。

*日本の食料自給率が急速に改善されたりはしない。輸入にたよりながらも、しっかりと管理ができているかを、私たちがチェックしなければならない。

では、原稿用紙に書いてみよう！

課題3 資料型「食料問題」

資料から日本の食料自給率は諸外国と比べてきわめて低く、その原因として日本の食生活の洋風化があげられている。そのため日本は多くの食料を輸入しているが、その安全性について多くの人たちが不安を持っていることがわかる。

日本が安全で豊かな食生活を取り戻すためには、現在の食生活を見直す必要があると思う。

輸入食品の農薬残留問題は今もなお続いている。輸送に時間がかかるため、害虫の被害を避けるため必要なものが、採算が優先され、決められた量以上の農薬が散布されることがもあるようだ。

近年、地域で作られたものを地域で消費す

■解説

◆ステップ1◆3つのグラフを読み取ろう！
資料①から日本の食料自給率が低いこと、資料②から多くの人々が輸入食品に不安を持っていること、③から日本人の食生活の変化していることがわかる。これらのことを簡潔にまとめよう。

◆ステップ2◆問題を提起しよう！
日本が安全で豊かな食生活を取り戻すためには、日本の風土にあった作物の増加が望まれる。そのためには、洋風化している現在の食生活を見直す必要がある。

このような活動がもつと活発になれば地域
の農業も活性化していただくろう。日本が安全
で豊かな食生活を取り戻すためには、本来の
食生活を見直し、地産地消を心がけることが
大切なのである。

◆ステップ3◆体験・見聞を挙げよう！
◆ステップ4◆体験・見聞をもとに考えよう！
輸入食品に関する見聞や体験を一つ取り上げ、その事実を根拠として、日本が安全で豊かな食生活を取り戻すためにどうすればよいのか考えてみよう。

◆ステップ5◆意見をまとめよう！
ステップ4の考察をまとめ、今後私たちはどのよう
に食料問題に向き合っていくべきか自分なりの考え
をまとめよう。